

インターバンクの声（2014 年 11 月 18 日）

悪い数字になるとの予想がもっぱらだった国内第3・四半期国内総生産（GDP）速報値は、弱めながらもさすがにプラス成長には留まるだろうとの予想も覆し、2四半期連続のマイナス成長となってしまった。市場では俄に景気後退懸念が広がり、日経平均も終値で前日比517円ほど下落した17,000円台を割り込んでの終値となった。この株価の大幅安に呼応するように東京時間の為替市場ではドルが対円で大きく売られ、116円台を割り込んでの取引が昼前から夕方まで続いた。このためロンドン市場やニューヨーク市場の反応次第では、さらに大幅なドル売り・円買いが進むとの予想もあったが、円相場は底堅くドルが下げ幅を取り戻すかのような展開となった。市場での米景気回復への楽観的な見方が続き、ニューヨーク・ダウが日経に追随するような下げ相場にならなかったことも影響したようだ。今日、東京時間の夕方に安倍首相の会見が予定され、解散・総選挙と消費税引き上げの延期を発表するらしいが、メディアの予想通りの展開になるのか、それとも思いがけない展開となるのか注目だ。

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。